

ミンク岡山情報

中国民放クラブ
岡山支部
2013.9.18

民放クラブ秋の岡山大会

関学軽音楽部OBが演奏

11月7～8日

来る11月7～8日(木、金)には、中国民放クラブ秋の大会が岡山市で開かれます。7日17時からの大会では、ゲストとして関西民放クラブで活躍する「関学軽音楽部OB」の皆様5名が参加、楽しい演奏を披露されます。浮かれてダンスを踊る方もでてるかと・・・。

八日(金)のエスカレーション、ゴルフは名門倉敷カントリー倶楽部、観光は高梁市吹屋となっております。

会員の皆様にはすでに案内が届いていることでしょうか。申し込み締め切りは9月30日(月)です。岡山支部にはこの大会を成功させる責任があります。会員の皆様、ぜひご参加をよろしくお願いいたします。

「同好会便り」

写真同好会

第二回ギャラリー写真展

開催まで1か月となった今月6日、生涯学習センターに出品者が集まった。作品にバックシートを貼るのだが、作品に指紋が付かないようにと手袋をはめ、皺が出ないようにとの姿は

歩こう会幹事 谷本保夫

インターネット・メールについて

民ク・岡山ホームページは民放クラブ岡山支部、各同好会の案内や報告をはじめ、旅行記や会員動向などを、動画も取り入れて随時掲載しています。

民ク・岡山ホームページアドレス

http://www.geocities.jp/minok_okayama/

をパソコンのインターネット画面で指定するか、民放クラブ岡山で検索すればいつでも閲覧することが出来ます。会員からは記事を常時受け付けていますので、メール等で寄稿をお願いします。

又メールアドレスは、会員の慶弔や催事の連絡事項などを一斉送信機能により迅速に受け取ることが出来ます。8月現在、125名が加入されています。

尚、ご利用のパソコンは必ずウイルス対策をされ、パターンファイルなどの自動更新を設定するとともに、定期的に手動でウイルス検索をおこなって、快適な環境で使用されるようお願いいたします。メールアドレスの加入及び、アドレス変更連絡やホームページの記事投稿、パソコンに関する質問は jakvrv@ba2.so-net.ne.jp までお願いします。

民ク岡山インターネット・メール 幹事

若槻匡志(RSK)OB

伊勢神宮と出雲大社の両参り

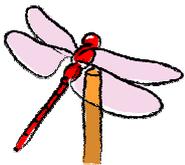
今年は猛暑日の連続で暑い夏でした。童巻による大きな被害も出た。少雨による洪水対策やピンポイントの大雨による土砂崩れなどの被害と人間の身勝手な文明社会と称しての自然破壊に対する神様の怒り戒めではないかと思う今日この頃です。



「困った時の神頼み」「信じる者は救われる」・今年には20年毎の伊勢神宮と60年毎の出雲大社の遷宮の年である。よし・両参りすればきつと御かげがあるだろう。

浅はかな庶民の考えで7月に伊勢神宮の外宮・内宮に2札2拍手1札で参拝しました。伊勢神宮には歌手の湯反昌幸さん・女優の荒木由美子さん、ご夫妻がテレビの取材をしていて一緒に記念写真も撮ってもらいました。

8月には出雲大社に2札4拍手1札で参拝しました。4拍手は四合わせ「幸せ」だそう、手を少しずらして拍手するのが良いと・・・手の節が合うと「不幸せ」になるからだと言う。拝殿、本殿でばっちり拝みましたので、神様に届いたものと考えています。





天気予報は両日とも雨でしたが、曇り時々小雨と参拝に支障なかったのは、神様のお力添えの賜物と心から信じて喜んでる次第であります。・・・八百万の神様に礼拝・・・

RSKOB 高谷 昇 2013, 9, 8

一時間で汗びっしょり

お陰様で元気に過ごしています。その後も早朝ウォーキングを続けて脚腰を鍛え、健康維持に努めています。起きたら先ず気象状況をパソコンで確認。家に帰るまで雨が降らないか、降っていたら直ぐに止むかどうか雨雲レーダー画像を見て判断、日の出時間の約10分前に家をスタートします。天気の良い日は素晴らしい朝焼け空を見ながら、早や足で吉備の中山を南から越え吉備津神社へ下ります。

右手にはタオル(汗拭きと虫追い用)、左手には500mlのペットボトル(自分で作ったスポーツドリンク)を、また、Tシャツのポケットで携帯ラジオを鳴らし、半ズボンには携帯電話(歩数計付き)、軽登山靴の出で立ちです。約一時間で帰ってくると汗びしょになり、シャワーを浴びた後はとてもスッキリした気分になります。椎間板ヘルニアの手術をして一年になり、MRI画像診断では全く異常無しとの事、安心して

登山にも出掛けています。この夏は一人の孫(乳児と三才)の世話で時間の束縛があり、遠くには行けないものの、県北の山に登って山頂の涼しさを満喫し、猛暑を凌ぎました。大山登山計画では雨で二回予定を変更、秋には何回か大山山域にも出掛け、山で撮った写真は、また、ホームページ作品展で観てもらおうと思っ

(RSK・OB 井垣武彦)

今だから話そう

「OK劇場の決闘」

テレビが始まる前、ラジオ単時代の話である。入社2年目ごろ一時ラジオ編成を担当していた。ある朝、山陽新聞のラジオ番組欄を見てあつと驚く。音楽番組の曲目紹介になんと「OK劇場の決闘 他」とあるではないか。正しくは勿論当時大ヒット中の「OK牧場の決闘」なのだ。もう訂正の仕様も無い。

実は番組プログラムを新聞社に送稿する前夜岡大卒で東京に就職した親友が久方ぶりに帰郷して来たので、夜の岡山探訪とあいな

田町のあるBARで少し飲んだだけにブツクられ、腹立ちまぐれ酔いまぐれに当時柳川交差点の少し南にあった「OK劇場」へ繰り込んだ。幸運と言おうか当夜ストリップ嬢が大ハッスルを見せてはならないものまで見せてくれた。友は「岡山にもこんな良い所があったのか」と大感激。「又もどつて来るよ」の言葉を残して東京に帰って行った。

かくして無意識のうちにラジオ番組欄に「OK劇場の決闘」がお目見えすることになってしまったのだ。幸いこのチョンボは誰にも気付かれず事なきを得たが、勇壮な名曲「OK牧場の決闘」を聞

くたびにチクリと胸をさす五十五年以上前の小さな懺悔の記録である。<後日談> 「OK劇場」はその数日後サツの手入れを受け、ストリップパーは猥褻物陳列の現行犯で逮捕され、公演は残念ながら打ち切りとなった。そして「OK劇場」そのものも時代の流れの中で、やがて岡山から姿を消して行った。

(RSKOB 妹尾信秀)

セントアンドリュースで

8月末、ゴルフに取りつかれた七十男四人



組がスコットランドへ旅立ちました。お目当ては、セントアンドリュースでプレイをすること。もちろんあのオールドコースでも。ゴルフ発祥の地、変わりやすい天気、あの荒涼

とした大地でラウンドを楽しみました。突然顔を出すタコつぼバンカー、超深いラフに全員、悩まされました。プレイした三コースのスコアは内緒にしておきます。バッグをかっついてくれたキャディたちは我々をどう評価しただろうか。

RSKOB 水川勝彦

日本一暑い町を訪ねて

来年1月1日から岡山県立博物館で、高知県の交流展「土佐の水とくらし」四万十川の漁を中心に」が始まります。この交流展でボランティアガイドを務めるための研修で8月19日に高知県の四万十市に行ってきました。

たまたま一週間前の8月12日に四万十市は最高気温41.0度を記録して、これが国内最高気温となり、また、以後四日間にわたって40度超えの酷暑日が続き、毎日のようにニュースで取り上げられたため、「四万十市は日本一暑い町」として有名になってしまいました。

なぜ四万十市で国内最高気温を記録したのか。高知地方気象台の話では四万十市の気象観測地点が1000メートル級の山々に囲まれた四万十市北部の盆地にあり、温かい空気が滞留したまま逃げ出しにくく、太平洋沿岸から数十キロも離れていることから、気温の上昇を抑える海風が入りにくく、さらにフェーン現象が起りやすい地形のせいではないかということでした。日本最高気温を体感できるのではないかとの期待をもって四万十を訪ねましたが、その後、高温は続かず、四万十を訪れた19日の最高気温は岡山並の36度ほどでした。

四万十川の河口付近は川を下ってきた淡水と太平洋から上ってくる海水が混じり合う汽水域で、川と海の魚が200種類も生息している豊かな漁場として知られています。そこで繰り広

げられている伝統的な漁法を見てくるのが今回の研修の目的で、研修の成果は来年の1月1日から始まる交流展のガイドで披露したいと思っています。

ところで、四万十川の漁師さんに聞いた話ですが、かつては台風銀座と言われていた高知県にこのところ台風が寄り付かなくなったということでした。汽水域を良い状態に保つためには、適当に台風が来て汽水域をかき混ぜてくれることが必要で、厄介者扱いを受ける台風も四万十川にとっては恵みの台風だといえます。

ゲリラ豪雨、竜巻、猛暑日から酷暑日へと連日のように異常気象を予感させるニュースが続いています。いつになったら異常から正常に戻るのか、国内最高気温を体感できなかったのは残念でしたが、その日が早く来ることを待たれる今日この頃です。

RSKOB 谷本 保夫

「めだかの学校」に

入学する

以前から趣味として熱帯魚や金魚を飼っていたが、今はメダカを楽しんでいる。小川のメダカの群れを俗に「めだかの学校」と言うが、郊外の小川や田園で見かける事が少なくなった。

主な原因は、農薬の使用、生活排水による環境の悪化、護岸工事による小川の減少、外来種の影響など理由があげられている。環境省がメダカを絶滅危惧種に指定してから、日本各地で保護活動が行われるようになった。

さて、このたび岡山市北区建部町にある岡山市環境学習センター「めだかの学校」を訪れた。時々立ち寄る建部温泉会館のすぐ北側にある。昭和六十三年に開校されメダカを通じての自然の大切さ、命の尊さを学習する施設である。

入り口の前の庭に「春の小川」が再現されている。親子ずれの人たちと一緒に覗いてみると、メダカは勿論ざりがにを見る事ができた。建物の中には睡蓮の咲いている瓢箪型の池を囲んで淡水魚水族館となっている。かつて良く見かけたドジョウや鯉等約三十種の魚が展示されている。純淡水魚の多い川ランキングで、旭川は日本で第四位、吉井川は五位、高梁川は七位と表示されている。又、庭には赤枝郁郎先生のゆかいな仏さまの土ひねりの像が置かれている。平成六年メダカは向井千秋さんと宇宙旅行をして地球の環境を考える実験に貢献したとの表示がある。

話は変わるが、日本人初の宇宙飛行士として活躍した元TBSの秋山豊寛さんは、五十三才で退職しメダカや赤とんぼが生れる田圃を福島県の阿武隈山麓に作って農のある暮らしを団塊シニアの生き甲斐にしていると述べられている。めだかの学校の歌詞を思い出しながら帰途についた。

高齢の吾を見守る目高かな

英一郎
(二十五年八月) RSKOB 木村 英一郎



やはり入選は嬉しい!

俳句をはじめて二年余、なかなか佳句は出来ませんが五月に「新茶先づ遺影の笑みに供へけり」六月に「黴の香の漂ふ文のいと昔」が毎日新聞岡山県版の俳壇に入選しました。黴の香の「文」は学生時代のもですが「大切にされている文、黴臭い文に若かりし頃が鮮明に蘇ります」と選者の評です(もともと家内からは「いつまでも古い手紙を置いておくの処分して」と言われましたが)。

八月は「球児らの土を土産の晩夏かな」が準特選となりました。

俳句は「入選や句会での高得点を狙って詠むものではない。自分が感動したことを詠むもの」といわれますが、やはり入選は嬉しいものです。

これに気をよくして川柳にも挑戦。今年は四月上旬まで寒く、下旬になると気温二十五度を超える夏日。五月二十七日には例年より二週間も早く梅雨の入り。そこで「春がなく夏と思えば梅雨の入り」と山陽新聞へ投稿。時事川柳欄に載りました(五月のミンク岡山のゴルフコンペで妹尾さんから、小生(コンペは不参加)の拙句を紹介して頂いたそうで、ありがとうございます)六月には岡山西警察署の副署長が拾得物の腕時計を使っていたというニュースをみて「忘れ物の腕時計は腕保管」と詠んで投稿、山陽新聞時事川柳に採用されました。「選者の句一度投句者評したい」これは毎日新聞柳壇(川柳)に入選したものです。選者から「私の拙句を評してください」との手紙を頂きまして、どうしたものか思案中です。

「黙禱す六日の朝の蟬時雨」(炎天の正午の静寂十五日)(句会で三点頂く)

改めて平和の尊さを感じる夏でした。

OHKOB 行本章允

噴飯もの

菅田一郎 (RSKOB)



塩はダメ油も断たれ枯れてゆく
美味しいと連呼するのはテレビだけ
飲み込みが悪いのだけは親譲り
二十九噛んだところで顎はずれ
手前味噌家族そろって糞味噌に
子沢山ここぞとばかり試食する
笛ケトル鳴くまで待たずそばで待つ
ちやぶ台を返して妻に詫びを言う
バイキングおばちゃん族に尻尾巻く
治療より病院食で名を馳せる
後味が悪くなるほどつまみ食い
明日ドック年に一度の休肝日
半世紀つがいで餌を食う不思議

源平合戦ゆかりの

藤戸寺を訪ねて

RSKOB 松田通男

寺訪ひし道を迷ひし草いきれ

寺どころも高き石段沙羅咲けり

日盛りの寺や源平合戦図

撫で仏足より撫でて原爆忌

香煙の絶ゆるときなき星まつり

馬馳せる武将の像や土用東風

本尊は千手観音ねむの花

蹲に沙羅の花浮く太子堂

能面の何を語りし夏座敷

境内に土佐の刃物屋百日紅



RSKOB尾島一正さんから、民放OBのアマチュア無線交流の様子が寄せられましたので、掲載します。

民放OB HF 全国ネット参加各位

残暑お見舞い申し上げます。 JA1PX 秋田です。

昨日は酷暑の中、またお盆入りのお忙しい中、表記ネットにご参加下さいましてありがとうございました第5回となる昨日のネットに11局のご参加がありました。添付資料はその報告です。このフォーマットはJA8PO 内田 OM が作成して下さいました。

7N2WFW 橋本 OM は初参加です。但し彼は、この民放OBのアマチュア無線同好会の旗振り役で、関東民放クラブの理事を務めています。集合住宅でHFアンテナをどのようにするか苦労していますが、近くにお住まいのJA1AKZ 高橋 OM のサポートを頂いて、10Wの出力ながら参加が可能になりました。

JA1BQK, JF1ETE, 7N2WFW, JA1PX を中心に関東民放クラブアマチュア無線同好会を昨年春に立ち上げ、430MHZで月2回ロールコールをやってきましたが、千葉市周辺のグループと東京西部のグループとの交信がままならず、この4月からHFでネットを月1で試験運用してきました。

皆さまのご協力のおかげで添付資料のように延べ21局の参加となりました。

もう少し続けて30局位になりましたら、日本民放クラブの同好会に出来ないか考えております。全国規模の同好会は現在一つもございません。各地域毎の民放クラブに所属しています。

これまでの同好会は、個人が集まって何か趣味を楽しむことで成立してきましたが、我々の現状は集まるのではなく、自宅や移動先から参加し、ライブで交信するのが他の同好会と違います。

何年も前に、我々の大先輩の民放OBでハム仲間の方々が試みてきましたが、思うようにいかなかった過去があります。今理事会にアピールしている最中ですが、機関決定で認められない場合は、任意のグループとして続けるか終了するか皆さまに御計りしたいと思います

局系列を超えて仕事上の繋がりが、仕事上のライバルながら協力しあつたりした同志です。まだまだ越えなければならない課題はありますが、何とか実らせて何年に一度はアイボールが出来るようになればと夢をみえています。

今のHFネットは、民放クラブに入会されるかどうかは条件にしています。少しでも多くの仲間がお空で集える場でありたいと願っています。皆さまからも民放OB、ハムは現役の方々にお声掛けくださいますようお願い申し上げます。

なお、来月は9月14日(土)15時からです。

秋は名ばかりの残暑が続きますので、どうぞご自愛下さいませよう。



— 会員動向 —

入会

高森 敏夫さん (TSC OB)

退会

黒崎 美和さん (RSK OB)

編集後記

今年是中国ミンクの秋の大会が岡山へまわってきたという事で、この機関紙の発行を一ヶ月早めました。それでも皆様から多くの原稿が寄せられ、編集子としましても嬉しい限りです。この秋はそのほかにも、歩く会の笠岡散策、エネルギアでの第二回写真展と行事が目白押しです。皆様存分に楽しみましょう。(S)